

(様式例)

## 令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立糀谷中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・実験や観察などの体験をさせるなかで授業内容の理解を図り、一定の成果がみられた。
- ・実験や観察などを重点的に行い、まとめと考察を繰り返すことで、思考力・判断力・表現力が向上した。

#### (2) 課題

- ・時間がたつほど知識の定着が薄れるため、定期的に確認させることが必要である。
- ・実験や観察などに対する高い意欲を、学習課題に対する思考力や判断力、表現力につなげる必要がある。
- ・各自の苦手な部分、定着が必要な部分を自己分析し、改善に取り組む必要がある。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	3観点の中で、知識・技能の目標値を下回った。また、思考力・判断力・表現力と主体的に学習に取り組む態度の観点は、目標値を上回った。目標値とのポイント差が大きい観点は知識・技能であった。		
第2学年	すべての観点で目標値を下回った。校内正答率は前年度と比較して、教科正答率は上がった。目標値とのポイント差が大きい観点は知識・技能であった。	すべての観点で目標値を下回った。校内正答率は前年度と比較して、教科正答率は下がった。目標値とのポイント差が大きい観点は思考・判断・表現であった。 (第1学年時)	
第3学年	すべての観点で目標値を下回った。校内正答率は前年度と比較して、教科正答率は上がった。目標値とのポイント差が大きい観点は知識・技能であった。	すべての観点で目標値を下回った。校内正答率は前年度と比較して、教科正答率は下がった。目標値とのポイント差が大きい観点は知識・技能であった。 (第2学年時)	すべての観点で目標値を下回った。校内正答率は前年度と比較して、教科正答率は下がった。目標値とのポイント差が大きい観点は思考・判断・表現であった。

			(第1学年時)
--	--	--	---------

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物質・エネルギーの分野に関する知識の理解が定着していない。	よく理解しており、おおむね問題はない。実験計画や実験結果からの推論などについてはまだ定着していない。	この観点の問いについてはどの問題もよくできており、目標値よりも2ポイント高い。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な用語や現象については理解しているが、現象の説明や比較についての知識が定着していない。	自然現象の説明や、実験の目的の考察など身についていない。	正しい実験操作やてこの原理の理解などは身についており、理科への関心は低くはないと考えられる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実験結果や現象をふまえて解答する問題においては正答率が高く改善傾向にある。一方で化学変化に関する問題を中心に、実験に関する問いに現象を表現することに関する問題は正答率が低かった。	実験結果等をふまえ、その関係性について推測する問題おける正答率は目標値に近く改善傾向にある。一方で実験操作や現象における説明文の指摘に関する問題で正答率が低かった。	実験操作に関する問題への正答率は目標値に近く改善傾向にある。一方で実験結果が生じる理由を問う問題において正答率が低かった。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な知識の定着を図るために、ワークシートを用いて演習を繰り返し行う。また、ワーク等の問題演習を行い、知識確認に時間をとっていく。	実験計画や課題の発見に時間をかけて探究的な授業を行う。また、少人数の話し合い活動に取り組みさせる。	教科書で扱う法則や実験などを、身の回りの現象と結び付けさせるように扱う。また、イメージマップを通して、学習事項と日常の科学的現象を結び付けて指導する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な知識の定着を図るために、ワークシートを用いて演習を繰り返し行う。また、振り返りの時間を	実験や観察などで、少人数の話し合い活動を行わせ、探究的に課題に取り組みさせることを行う。	教科書で扱う法則や実験などを、身の回りの現象と結び付けさせるように扱い、興味関心を引き出す。またワーク

設けて振り返りを行う。		シートで振り返りと自己分析を行わせる。
-------------	--	---------------------

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学式や化学反応式において苦手意識が高く、知識の定着につながるような演習問題を多く解かせて定着につなげる。また化学・物理分野の目に見えない事象に関して深い理解につなげる取組の工夫を行っていく。	説明文への指摘など事物、現象に対する応用的な見方、考え方を養うような活動を取り入れ、思考力を高める授業展開に努める。	学習内容と日常との関連を考えて学ぶような内容を授業に導入し、興味関心を高めると共に、理科の法則や実験結果と身のまわりの現象と結び付けさせるような授業展開に取り組む。